

国際交流協会ニュース

— Ichihara International Association —



2024年3月26日 発行 市原市国際交流協会
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所 観光・国際交流課内
TEL 0436-23-9866 FAX 0436-21-0332
e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp
ホームページアドレス <https://iia-ichihara.org/>



こくふまつ じだいげうれつ
国府祭り時代行列



モバイル国際フェスティバル

■もっと知りたい？よその国「ネパール」

■上総いちはら国府祭りに参加

■国際交流ひろば 来て！見て！話そう！ハローウインを楽しもう！

■日本語学習と学びなおし

■香取市国際交流協会 IIAを訪問

■食を通して文化を知る「フィリピンの家庭料理」

■TOEIC講座開催中

もっと知りたい？よその国「ネパール」

こうし
講師

かきみ かずまさし
垣見一雅氏

こうりゅうぶ かい
交流部会

2023・7・22



こうりゅうぶ かい し くに
交流部会のもっと知りたい？よその国

シリーズのネパール編が市民会館会議室に於いて7月22日開催された、講師の垣見さんは1988年観光客として初めてネパール訪問、1990年アンナプルナ・トレッキング中に雪崩に遭遇、九死に一生を得て生還したが、同行のネパール人ポーターは亡くなり、彼の村を訪ねると厳しい暮らしをしている人々のことを知り、1993年亡くなったガイドの生まれたドリマラ村に住み、村びとが欲しがっていた識字教育のための小学校建設を支援した。翌年から隣村から、そしてその隣村からと声が掛かり、支援地域は東バルバ全域に、領域も教育、医療、水、経済的自立化などに広がりに24年支援を続けている。

村に学校を建て、病気の人に治療費を出してあげていたのにテントに住んでいたため、村人が6層程の家を建ててくれました。その家にも月2日ほどしかいないのは、車の行かない村々を歩いては、村の人々が何で困っているかを聞いて回っているからです。ネパール語が話せなかった頃、村人達の窮状を聞いて「OK、何とかしてみるよ」と英語で言っていたため、子供達から「OKおじさん(OK Baji)」というあだ名を貰ったとのこと。「声に出せない人々の声を反映させないと、開発は益々格差を生んでしまう。支援を必要とする人々と日本の善意の支援者とのパイプ役に徹したい」というのが垣見さんの基本姿勢。

2009年に吉川英治文化賞を受賞、1997年には当時のネパール国王より日本人はじめてゴルカダッチンパウ勲4等を授与されている。

こうした垣見さんの支援プロジェクトは多岐に渡る：医療支援（ヘルスポスト、治療費支援など）・教育支援（学校建設、奨学金、教師給与補助など）・水プロジェクト（灌漑用水、給水設備など）・生活インフラ改善（トイレ、バイオガス、ソーラパネル、つり橋など）・自立化支援（換金作物栽培支援、山羊・豚の飼育資金援助、耕作機械器具購入支援など）・生活物資支援（衣料、寝具など）。

雨季で村々を回る活動のできない2カ月の間、垣見さんは日本に帰ります。日本中を講演して回るのがですが、電車代を浮かすために2百数十円の電車を使わずに歩いてお金を貯めます。ネパールに帰った時にそのお金で米を買い、米を買えない貧しい家にプレゼントします。ご自分に縁のある人々の中で米の必要な家庭を日頃からきちんと見ているからできることです。支援を求めてきた人だけを見ている訳ではないのです。今回の講演もそんな一日を割いて来て頂いた。

今回垣見さんが講演の初めに語られたのは、「to give is to be given（与えることは与えられること）」、常に感謝の言葉を忘れないこと、ネパール人は時間にルーズというが、時間通りに行くと思わ

ないこと、自分が変われば良い、良い空気・水を味わい、良く笑い、歩くこと、ストレスをためないことが肝心とご自身の哲学を語られ、聴衆にもグループディスカッションを通じて意識改革を迫った。今回垣見さんに講演謝礼としてお支払いしたのは僅か2万円であったが、垣見さんから以下の丁寧なお礼のメールを頂戴した：

私は垣見一雅と申します。ネパールに住んでいます。

今夏7月22日、もっと知りたいよその国と題して貴協会主催でお招きを頂きました。

お招きありがとうございました。その折いただきましたご支援金を添付の写真にあります母子家庭の姉弟の奨学金として使わせていただきましたので、御礼の方々お知らせさせていただきます。この2人はタンセン市ブッシュルダダ校在学中です。同校の校長の依頼で決定したものです。経済的な問題を抱えており支援を決定いたしました。1年間どうぞよろしく願い致します。ご協力ありがとうございました。今年は皆様にとってどんな年でしたでしょうか。残り少なくなった2023年を皆様お元気で過ごしてください。

ネパールの山奥の村より。 Okbaji



奨学生2人と母親、右端が垣見さん

かずさ 上総 いちはら 国府 祭り に 参加

2023・9・30～10・1

時代行列 (頼朝武者行列)

9月30日



9人の侍



ステージに整列

9月30日(土)に開催された第10回上総いちはら国府祭りの「時代絵巻行列」に市原市国際交流協会から9名参加しました。当日のスケジュールは以下の通りでした。

9:30「五井東街づくりマネジメント(株)」に集合、12:50～13:10山車と共に巡行、14:00着替え解散完了。

13:20 国際交流協会参加者記念撮影：暑さと良く戦って無事生還した9人の侍。(源頼朝公は熱中症の為、途中交代した)

行列に参加されたのは下記9人。男性3人、女性6人。中国4人、ブラジル2人、パキスタン1人、スリランカ1人、フィリピン1人。女性は平安朝装束を着たかった模様であるが、口では「楽しかった」と言っていた。頼朝行列のまとめ役の方からは、「元よく頑張ってくれてとてもよかった」との言葉を頂いた。

IIAブース設置

10月1日



展示されたパネル



隣のアフリカ打楽器ミュージシャンが訪問、演奏してくれた

当日IIAはフレンドシップバザールのHブースにて市原市国際交流協会の活動等に対する展示、ユニセフの募金、広報活動を行った。ユニセフを通して募金箱と釣り堀による募金を行った。釣り堀は主に子供さんを対象に、募金を100円出してもらい魚を釣って、お土産をあげるというものである。30人に参加してもらったので3,000円が募金された。合計金額は9,165円であり、釣り堀以外は6,165円である。子供さんにお金を持たせている親御さんが数例あった。他の人へも思いやりの心を持ったやさしい人に育ててほしいという親ごころを感じた。集まった募金はユニセフへ送金した。

☺☺☺ 会員募集中 市原市国際交流協会はいつでも誰でも入れます ☺☺☺

国際交流ひろば来て！見て！話そう ハロウィンを楽しもう！

国際交流部会

2023・10・29



10月29日、国際交流ひろばが戸田コミュニティセンター多目的室で開催された。参加者はインドネシア、台湾、アフガニスタン、中国、フィリピン、ペルー、ブラジル、スリランカ、アメリカ、ウクライナ、日本の11カ国から約100名。

当日は参加10カ国のブース（台湾、中国、インドネシア、タイ、フィリピン、ネパール）、物販を設け、料理の試食コーナーも4年ぶりに再開。

プログラムは、午前にハロウィンコス

チュームコンテスト、参加者は事前にエントリーした子どもと前日参加申込みの子どもの8名、ばあば手作りのカボチャの衣装、ママ手作りのアニメの衣装など工夫を凝らしたのから購入した豪華な衣装などもあった、皆可愛かったので今回は参加者全員に賞品を贈ることにした。その後、市原警察署の署員より防犯についてお話を伺い試食タイム。どの国の料理も普段なじみの薄い外国の料理ですが「おいしい」「これは何?」とか「懐かしい」ふるさとの味を楽しむ人もいた。今回初参加のウクライナのイリーナさんの料理は、お母さんのレシピで作ったパンやお菓子です。材料費はライオンズクラブの寄付、売り上げは会場に置かれた募金箱の募金と一緒にウクライナの子どもたちに支援される。

午後は、台湾のクローバーズのバンド

演奏と歌、9歳の永森あずさちゃんの踊りを楽しみ、クイズで頭の体操、最後にインドネシアのデウインタさんの指導をうけマカレナダンスで盛り上がり無事お開き。実施するまで様々ありましたが、参加者の皆様が口々に楽しかったと言って帰っていく姿を見ると、世界では色々な紛争があっても、それぞれの国の状況とは別で行事を通して個人個人が出会い楽しむ、小さな繋がりかもしれないこの事業を続けていく事の意義は有るのではないかと思った。



モバイルインターナショナルフェスティバル 実況中継を鑑賞

姉妹都市部会

2023・11・17



毎年開催されているモバイルインターナショナルフェスティバル（MIF）が2023年も11月15日～17日の間、盛大に開催された。今回MISCA（Mobile Ichihara sister City Association）がIIA

中継のサービスしてくれたものである。

姉妹都市部会がMIFの実際の映像を見るのは初めてのことで、フェスティバルというので屋外かと思っていたら、細長い移動式建物4～5棟で行っていたのが意外だった。この催しはモバイルに住んでいる外国人の方が母国を紹介するイベントで、例年通りの規模とのことだが、今年の内容は文化紹介ブース35ヶ国、食べ物紹介25ヶ国とモバイルにいながら世界を知ることができる大規模なイベントで、IIAの国際交流フェスティバルとはスケールが違っていると感じた。



日本語学習と学び直し

日本語八幡教室 宮下眞一

生涯学習という言葉が社会に登場して久しい。この生涯学習の一環として“学び直し”が位置づけられる。特に最近今まで以上に政府広報や雑誌・新聞テレビ等のメディアで“学び直し”という言葉が目にとまる。現在、当教室に通われている学習者の中に、すでに日本語を習得された後に“学び直し”として、日本語学習に励んでいる方がおられる。Aさんである。

Aさんは、N1(*)に複数回合格の実績を持ちながらその修得した日本語活用機会が少なかった。それゆえ、それまでの日本語力の回復と更なる向上を目指して日本語学習を継続している。Aさんのような“学び直し”の学習者は、学ぶ目標や目的が明確である。学ぶことが明確な超級者用に対しては、学習支援者としては授業内容に工夫が必要とされる。要望に添うためには、どのような授業形態をとるのが良いか学習者と相談しながら、お互いの納得のうえでの授業進捗が必要となる。修得した日本語活用機会が少なかったAさんからの要望もあり、授業の前半はAさんから前週の様子を語ってもらうことにしている。この間、私は、相槌や会話を促す質問をする程度で、聴くことに傾注している。話題豊富なAさんである。時として、会話の応対で授業が終了することもある。後半は、

私が用意した資料(事前にAさんに説明・納得済み)を教材として、音読・用語の説明・文の大意・テーマの設定等々をAさんに説明してもらい、必要に応じて私が補足説明をするようにしている。昨年の記念式典での日本語スピーチ大会において、Aさんは、御自身の経験を“左様でございます”というテーマにて大会に参加した。ある日、航空券予約の際、航空カウンターとの電話でのやりとりにて、Aさんの問い掛けに対して、カウンターの回答が常に「左様でございます」であった。この敬語について、日本語教室における授業の話題となった。Aさんから「なぜ、さ(左)ようで、う(右)よう、とは言わないのですか」との質問を受けた。私は一瞬「!？」と思った。私自身、その時まで考えもしなかったことであり、私自身次週への宿題とすると同時に、Aさんにも調べてもらった。意外なことが分かった。その根拠は、奈良時代、日本が国をまとめる礎となる政治制度確立に際して、当時のAさんの母国の古代の政治・文化を参考にすることが分かった。このことが現在の舞台上の上手、下手、来賓の座席位置、和食のご飯と汁物の配置等にも影響していること、別れの「さようなら」の語源にまで通じることを知った。Aさんは、この学習結果を基に日本と母国との関係

を思いつつ、当日のスピーチを行った。実は、私も学び直しの経験者である。企業勤務時代、自分自身にその必要性を感じ、自己啓発の一環として、40代で2年間、50代で7年間、勤務しながら学び舎に通う学研生活をおくった。その結果、“井の中の蛙、大海を知る”ことができた。その延長線上の一つに、現在の日本語学習支援ボランティア活動がある。現在、Aさんは資料を一語一語をかみしめるように授業に臨んでいる。毎週の学習において、Aさんの意見や考え方に支援者として学ぶべきものが多くあることを感じている。現在、Aさんはご主人と共に飲食店の経営者としてご活躍の方で、将来通訳となり、母国と日本の懸け橋として、文化を始めとする交流活動に貢献したいとの希望を持っている。これまでに習得した日本語にさらに磨きを掛け、その能力維持・向上を目指し、“学び直し”として日本語学習を継続している。可能であれば、将来Aさんが教室において、日本語学習者に対して母語を媒介語として、支援者活動に参加されることを祈念している。

(*)日本語能力試験にはN1、N2、N3、N4、N5の5つのレベルがあります。一番やさしいレベルがN5が一番難しいのがN1です。



IIAの日本語教室の開催状況

教室名	場所	日程
1 五井教室	五井会館	毎週木曜日 10時~12時
2 やわた 八幡午前教室	青少年会館	毎週日曜日 10時~12時
3 やわた 八幡午後教室	青少年会館	毎週日曜日 13時~15時
4 やわた 八幡水曜夜教室	青少年会館	毎週水曜日 18時30分~20時30分
5 ラベンダー教室	青少年会館	毎週金曜日 10時~12時
6 あねさき姉崎教室	あねさき公民館	毎週月曜日 9時30分~11時30分
7 なん総教室	南総公民館	毎週日曜日 13時~15時
8 たつみ 辰巳台教室	辰巳公民館	毎週土曜日 18時30分~20時30分
9 白金こども日本語教室	白金小学校	毎週金曜日 14時40分~16時10分

(白金小が特別日課の日は時間変更あり 小学生対象・幼児や中学生も可)

香取市国際交流協会 (KIFA) IIAを訪問

2024・1・26



1月26日国分寺公民館に於いて香取市国際交流協会とIIAとの視察研修交流会が開催された。当日来訪されたのはKIFAからは栗林副会長以下16名、香取市役所から2名の計18名、IIAからの参加者は久保会長以下運営委員13名、市原市役所から2名の計15名であった。

KIFAは2004年設立、約千人の在住外国人を対象にした日本語教室開催、香取神宮等市内名所を訪問する外国人観光客を対象にした通訳ガイドボランティア活動などを中心に活動してきた。この度米国領サイパン市との姉妹都市交流を始めるに当たり、30年間に渡りモビール市と姉妹都市交流を続けてきた市原市の交流ノウハウを聞きたいと来訪された。当日10時15分から始まった交流会はKIFAからの活動紹介、IIAからのパワーポイントを使った活動紹介、市原市から

の姉妹都市交流事業の紹介の順でプレゼンを行い、続いて相互に質疑応答という形で交流が行われた。質疑応答では香取市からIIAに対し日本語教室の運営状況、姉妹都市交流の実情、費用負担、ホームステイ先の募集・選定状況等につき熱心な質問が出され、またIIAの活動拠点である国際交流センターについても設置・運営状況について質問があった。お互いの市の名物のお菓子の交換などあり、和やかに行われた交流は定刻11:45分終了した。

食を通して文化を知る「フィリピンの家庭料理」

交流部会

2024・1・13



1月13日、国分寺公民館にてコロナ禍で実施を控えていた、料理を通してその国の文化や風土などを知る行事を、フィリピン出身の長沼ニダさんに講師をお願いしてフィリピンの家庭料理を教えてくださいました。メニューは、フィリピン風春巻き、鶏肉とパパイヤのスープ、タピオカとさつも芋のデザート。春巻きは中華の春巻きとは違いさつま芋とニンジン

を短冊に切りひき肉とキャベツを炒めて具にし、ニンニクと酢で作ったドレッシングをかけて食べます。参加した皆さん口々に「おいしい」と言っていました。食事の後はフィリピンについてお話しを聞いたり、クイズで頭の体操をして心もお腹も満足をしたと思います。料理のレシピをHPに紹介します。是非皆様作ってみてください。

TOEIC 講座開催中 於市民会館 会議室

2023・10月～2024・3月

コロナ等で休止していたIIAのTOEIC講座が2023年度は秋季講座を6回終え、現在冬季講座5回を開催中である。今回はTOEIC対策中級講座として米国ミシガン州出身、市内在住の山崎AMBERさんを講師に招いて鋭意進行中である。参加者は12名。TOEIC試験での高得点を目指し毎回熱心に学んでい

る。秋季コースでは語彙、文法、ヒアリング、リーディングに分かれた12単元約100ページを6回で終了してしまったのだから相当なスパルタ振りである。それでも落ちこぼれの生徒は一人もいなかった。IIAでは来期も同様な講座を開設していきます。乞うご期待。(5月～全5回日曜開催、於市民会館会議室)



会員募集中 市原市国際交流協会はいつでも誰でも入れます